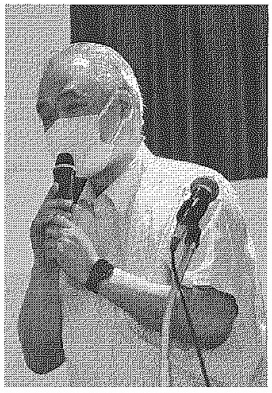
特集
ウイズコロナのもと
全国で活動再開
総会開催される

新副会長に山根和久氏

工業会 日本万引防止システム協会


大島氏

田中先生

稲本会長

森川監事

山根副会長

工業会 日本万引防止システム協会（JEAS、稲本義範会長）は6月2日、東京都千代田区にある主婦会館プラザエフ9階スズランで令和4年度通常総会を開催、司会は政策・研究委員会の松崎泰二理事の進行で進められた。

総会は会場のほか、オンラインでも多数参加して行われ、テーマを『防犯民主主義実現に向けて』として実施。また、今回の総会の後の記念講演では『つながる心でESG＊DX 時代のロス・プリベンション推進！』というテーマで仙台大学の田中智仁先生が「防犯システムと人的警備の融合」と題した講演を行い、引き続きパナソニックコネクト（株）インダストリートテラジストの大島誠氏が『米国小売業』に魅せられて30年・小売業界の現在地と未来像」を講演した。

総会が開会されると、司会の松崎理事が「本日、会場出席20社とオンラインの参加6社、委任状7社、正会員数33社で総会成立」と報告した。

続いて稲本会長が登壇してのあいさつは、以下。

皆様こんにちは稲本です。ネットの皆様聞こえますか。本日は、工業会 日本万引き防止システム協会令和4度通常総会・記念講演に会場参加、オンラインでの参加をいただきありがとうございます。

さて、令和3年の万引犯罪の状況ですが、全刑法犯に占める万引きの認知件数が昨年の14・2%から15・2%に悪化し、検挙件数も前年より884人も増加しました。刑法犯認知件数が年々下がっているなか、これは異常値です。当工業会がその社会的使命を全うできていない、役割を果たしていないのだと強く反省しているところです。さらにウクライナ情勢の如何では、食料やエネルギー不足、物価上昇が続くと思います。インバウンドの再開も難しいなか、先行きの社会的・経済的不安感が万引を助長していく可能性があると感じております。

それらの状況を踏まえ、昨年はひとつ目として、進化する顔認証システムを活用した第1回科学保安講習会を開催しました。科学保安講習会では当工業会が認定した顔認証システム〈マスク対応プラス〉4機種の実践的活用法に加え、個人情報保護法順守の内容が盛り込まれました。4月からの改正個人情報保護法施行に向け、防犯カメラや画像認識システムの安全利用のお勧め2021年度版、顔認証を利用した来店客検知システム2021年度版を準備しました。本年はそれらの活動をさらに着実にしようと次の準備をしているところです。

二つ目として万引き防止システムの市場調査を2月から5月に実施しました。AIカメラの会員が多数会員に加わったことを鑑み、今回初めてAIカメラの市場規模と個人情報等の安全措置の調査を加えました。調査では会員以外のAIカメラを扱っている企業にも協力を要請し、結果的に前回より12社多い39社の回答が得られました。

本日は摺田政策・研究委員長からその報告がありますが、少し申し上げると、EAS機器の出荷台数は伸び悩んでいるものの販売金額では、昨年が過去5年間で最高額となっております。顔認証は間もなく6億、8億、9億7千万、10億円を突破しそうな勢いですし、AIカメラに至っては倍増に近い伸び率です。会員各位が、『まぁ、まずできるところからやりましょう』ではなく、『苦しくてもやるべきことを本気でやり遂げてきた』成果であると嬉しく思います。

三つ目として、当工業会は創設以来、各種法令順守、機器の安全運用に尽力して参りましたが、昨年は5月には東京丸の内法律事務所 村田和希弁護士の「情報システム・モデル取引・契約書第二版」セミナー、9月には東京都立大学 多氣昌生名誉教授の「EAS装置からの磁界の人体暴露と安全性」セミナー、10月にはJIPDEC 常任理事 坂下哲也氏の「画像等個人情報の越境問題とデータ利活用」を積極的に開催しました。今年は7月に第7回JESA講習会、7月のリテールテック大阪2022への出展とセミナー開催、10月には危機管理産業店2022でのセミナーを行います。

その他として、無人店舗・セルフレジ、業務効率化などのDX推進プロジェクトを立ち上げ、POSメーカー各社とのセルフレジやレジカードの不正防止の情報交換を進めております。

それらの情報を適時発信するためのユーザー様向けの公式ロス対策メルマガ配信を開始し、お陰様で読者登録が着実に増えております。

結びになりますが、当工業会の使命は、万引犯罪撲滅を目指すソリューション団体として、誰もが等しく安全・安心を享受できる防犯民主主義を実現に向け、「店舗のロス・プリベンション」を軸に、流通業界の健全な経営、また青少年の非行防止・大量窃盗団の阻止高齢万引の未然防止・内部不正対策・ロス対策という産業的・社会的役割を果たすことです。

引き続き、この使命・そしてこの活動を次の世代へと紡いで参ります。

その後、議長選出では稲本会長が使命されたのち、第1号議案：令和3年度事業報告、収支決算の件を田丸典億事務局長が報告。その後、政策・研究委員会は摺田祐司委員長。DX推進プロジェクトは田中宗リーダー。技術基準委員会は田丸典億委員長。カメラ画像安全利用推進委員会は三宅正光委員長。科学保安警備プロジェクトは青柳秀夫リーダー。個人情報管理室は稲本義範室長。総務委員会は近江元副会長等がそれぞれ報告した。

監査報告では山根久和監事が報告。第1号議案は承認された。

第2号議案：令和4年度組織・人事の件では、近江総務委員長が本年は2年毎の改選時期であると説明した上で、新任として山根久和氏（現・監事）を副会長に、森川真次氏を監事と報告、これを承認。

山根新副会長は「私は警備業界の人間である。当工業会において警備業界から副会長就任は、かつてなかったという。警備業界からの視点で、これからも発信していきたい。また万引犯罪の現状に対して、どのように対策していくのかが当工業会の最大の責務である」とあいさつした。

第3号議案：令和4年度事業計画、収支予算の件では田丸事務局長が本年度のテーマ『つながる心でESG＊DX 時代のロス・プリベンション推進！』と報告した後、10のテーマを発表。

その後、予算案等を報告これが承認され、最後に佐藤聖顧問が閉会の辞を述べて終了した。

続いて、東京都立大学法学部教授の星周一氏、元総務委員会の福井昂顧問、第2代事務局長・瀬澤外茂幸氏等に感謝状が贈呈された。

引き続き2021年万引防止システム&AIカメラの市場規模等に関する調査の報告を摺田政策・研究委員長が行った。

第2部は記念講演として仙台大学の田中智仁先生が「防犯システムと人的警備の融合」と題した講演を行い、その後パナソニックコネクト（株）インダストリートテラジストの大島誠氏が『米国小売業』に魅せられて30年・小売業界の現在地と未来像」を講演した。

業界初となるAIカメラ市場市場規模と安全管理措置を含む万引防止システム調査報告書を先日の総会で発表